



Global Peacebuilding Association

特定非営利活動法人 日本国際平和構築協会

日本平和構築協会
44th セミナー
オンラインズーム会議
29 July 2020
16:00-18:00

コンテンポラリーコソボ国家に対する国連介入の影響
HE 大使 Leon MALAZOGU

オンラインセミナーは、コソボへの国連の介入と、1998年から1999年の戦争中にコソバンの人々が目撃した残虐行為をさらに理解するために開催されました。コソボの平和構築プロセスにおける国連の役割は、議論された主要なトピックの1つでした。その役割は、コソボと以前の占領下のセルビアとの間の和解において不十分であると強調されてきたからです。さらに、国際刑事司法裁判所（ICJ）の役割、およびコソボ諮問意見に関する一方的独立宣言の国際法（2010年7月22日）に基づく勧告意見および命令についても検討されました。

特定非営利活動法人 日本国際平和構築協会
Global Peacebuilding Association



Global Peacebuilding Association

特定非営利活動法人 日本国際平和構築協会

日本平和構築協会
44th セミナー
オンラインZoom会議
29 July 2020
16:00-18:00

コンテンポラリーコソボ国家に対する国連介入の影響
HE 大使 Leon MALAZOGU



Photo: ZOOM (GPAJ)

日本国際平和構築協会（GPAJ）の正会員であるアルベニータソパージ女史が、第44回日本国際平和構築協会セミナーを開催しました。その後、日本を拠点とするレオンマラゾグ大使と、オーストラリアのコソボ大使、ハジディンバジ大使、フランスのコソボ大使、ケンドリムガシ氏、メルディアナレチ外務省、コソボ外務省をはじめとするコソボ外交部隊を紹介しました。

ソパージ氏の紹介後、日本へのコソボ大使、レオンマラゾグ氏は、1998年から1999年にコソボで起こった紛争の簡潔な歴史的背景を説明することからプレゼンテーションを開始しました。彼はさらに、ユーゴスラビアの崩壊の間にコソボ市民が遭遇した障害とコソボが自治を求めた時を明らかにしました。独立国家としてのコソボは目覚ましい進歩を遂げているため、外国への投資を歓迎すると彼は説明した。彼はさらに、国家建設のために明確に義務付けられなかった主要な俳優としての当時の国連の役割を示しました。



大使はコソボでどの法律をリハーサルするかを承認するために18か月を要した、国連が直面した複雑さを明らかにしました。コソボでの国連司令部に関して、マラズグは、国連が期待されたほどの成果を上げておらず、同様の歴史的な経験を持つ他のどの国よりもコソボがUNSC会議で頻繁に支持されていることは驚くべきことであると述べています。イベント。今日まで、セルビアはコソボの独立を認めていませんでした。これは、両国が地域的および国際的なレベルで達成できる進歩に関して不十分です。

彼は、セルビアがコソボの独立を認め、欧州連合や国連との加盟交渉を始めるための青信号を出すことで、両国にとって有益な立場をとる決意を示しています。コソボ駐日大使。彼は、日本がコソボと絶え間なく安定したパートナーであると彼の見解を示し、彼は自由な順序で日本とコソボの共通の利益を宣言した。

最初のアナリストである世界平和構築協会（GPAJ）の副会長である井上健氏は、スケンダーラジでUNMIKの市政担当官に任命されたときの立場と、コソボが経験した複雑な段階について概説しました。その間、国連はコソボの試練に強い影響を与えたと述べた。彼は国連がその時に焦点を合わせていた3つの分野を指摘しました：人道援助、コソボセルビア間の和解、そして3番目は基本的な政権の設立です。

大使に向けられた彼の質問は、コソボ領土の土地交換に関するものでした。コソボはこの問題をどの程度重要視し、コソボの問題を解決できるかどうかを教えてください。

その後、最高検察庁・法務省出身の外務省国際司法協力大使であった野口元男氏（2018-2020）は、法と正義の文脈からのコソボ事件の見通し。彼はコソボの自由の啓示と国際刑事司法裁判所（ICJ）の決定から始まります。コソボ独立宣言が発表された時点で、外務省、国の承認を担当する国際法務局に所属。彼自身の見解をカンボジアでの彼の使命と比較すると、正義を追求する上で最も重要な要素は、全体の取り組みが地域社会によってどのようにサポートされているかです。

3番目のアナリストである黒沢悟教授は、1999年8月に国連コソボミッション（UNMIK）が設立されたときに初めてコソボを訪問しました。バルカン半島で国際協力機構（JICA）のODAを担当した2009年から2012年にかけて何度もコソボを訪れた。国連の役割について語る黒澤氏は、国連がUNMIKを通じてコソボに多大な貢献をしてきたことを示しています。しかし、権力がコソボ政府とEUに引き渡されたため、UNMIKの法令は引き下げられました。さらに、彼はコソボ軍（KFOR）がコソボの安全を担当していたと述べました。彼は2つの質問をマラズグ大使に向けた。まず、コソボとセルビアとの対話のために国連が果たすべき役割は何ですか。また、国連はこれら2か国間の対話を促進できますか。第二の質問は、国連が国際機関のコソボのメンバーシップをどのように管理できるかということです。



アバジ大使は、地域レベルでのコソボの結束に対する KFOR と UNMIK の役割についてさらに発言することから始めた。その間セルビア政権に反対した人々の一人であったアバジ大使は、コソボ独立宣言までのコソボの国造りへの彼の即時のコミットメントについてさらに私たちに開示しました。KFOR は、コソボが安全で友好的な国であることを保証することにより、コソボが NATO の監視下にあることの進展を最初から示しました。残念ながら、UNMIK は NATO とは対照的に重要な役割を果たしませんでした。より明確にするために、彼は UNMIK の活動を 2 つのセクションに分けました。民政における UNMIK の役割は進展において重要でしたが、コソボの北部で解決が進んでいることに関して、現在の UNMIK のコソボでの役割は、セルビア人の大多数の命であり、あまり貢献していません。コソボが国の建物内の他の国と国連の組織の役割の場合と見なされる場合、組織の特定の役割がコースをどのように変えた可能性があるかについて学ぶことはたくさんあります。

ケンドリムガシ大使は、正しく理解されていないが、長期的な影響を与える国連のアプローチの 1 つの側面、つまり地域的アプローチを続けました。国連がコソボに定住したとき、和解を得るすべての努力はコソボの領土内で行われ、コソボでの戦争はコソボの 2 つの民族コミュニティ間の紛争ではなく、コソボとセルビア間の紛争であったという事実を無視しました。通常、戦争はコソボの民族コミュニティ間の関係に重大な影響を与えました。バルカン半島での国連の取り組みは、コソボ問題ではなくセルビア問題がバルカン半島で発生したという事実を大いに無視した。間違いなく、スロベニア、クロアチア、ボスニア、そして最終的にはコソボに対して戦争を繰り広げたのはセルビアでした。コソボは和解を提唱し、最近の悲劇的な過去を征服しようとしてきました。コソボは、コソボでの戦争中（ランブイエ合意）とウィーン会談（アハティサリパッケージ）の場合と同様に、未解決の問題を解決する意欲を継続的に示し、合理的な妥協を受け入れてきました。

Merdiana Leci 女史は、UNMIK が最初にコソボで歓迎されたというマラゾグ大使のプレゼンテーションに同意しました。しかし、明確な権限がなければ、それは最終的な地位への道の妨げと見なされました。現地へのインプットの欠如とミッションへの説明責任の欠如は、ミッションが国家建設と独立の道を作ることをどの程度助けているかについての疑問を投げかけました。したがって、多くの国連平和維持活動から学ぶべき教訓があります。国際的な責任と地方の所有との間のより良いバランスが求められています。たとえば、国連のミッションが活動する場所での信頼性を高める方法の 1 つは、地元のスタッフと意思決定へのインプットを取り入れることです。しかし、コソボで活動するすべての国連機関は高く評価されており、コソボの人々は、今日でも国中のいくつかのプロジェクトで彼らが提供し続けている人道的活動と支援に感謝しています。

コソボへのダリア・シマンガン助教授の関心は、コソボが経験した発展の変化を目の当たりにして、セミナーに独特の視点を与えました。彼女は、コソボの人々が戦争が終わって以来そこに住んでいる人々と話す必要があることを経験している複雑さを理解するために断言します。彼女は質問をマラゾグ大使に話しました：コソボのディアスポラの数が多いことを考えると、国造りの課題と展望は何ですか？

長谷川祐弘理事長は、コソボ決議の初期段階における日本の立場について質問した。彼は、それぞれの国連の任務は特定の地域で起こっている紛争状況に応じて独特であると説明しました。国連のコソバン国民の期待は、組織が伝えられる以上のものに思えた。さらに、長谷川氏は、ICJ の勧告的見解は、コソボにその独立の正当性を提供したセルビアの要請の結果であると説明した。彼の結論は、これらの問題を克服する唯一の方法は、国際社会での彼らのケースを



東ティモールとインドネシアよりも良くするために協力し合うことであり、それが東ティモールの国連への加盟を可能にしたということでした。

このセミナーの貢献は、1999年のコソボと他の国々への国連の介入に関するさまざまな見解の議論でした。東ティモール、ルワンダ、カンボジアなど、イベントのコースを変えるために異なる方法で行われた可能性のあること。このセミナーにはコソボの人々が参加し、コソボの国造りに直接または間接的に携わってきた人道分野のさまざまな実務家や専門家が参加することで、効率的なセミナーと同時に参加者間の繊細な議論が行われました。

関連する質問をした他のスピーカーは次のとおりでした：

1. **Gamarra:** 国際社会からより多くの配慮を得るためにコソボはどのように悩んでいますか？
2. **Kubota:** コソボ（存在する場合）での国民的アイデンティティの断片化からの国造りの課題は何ですか？
3. **Kumagai:** 和解に関して、コソボとセルビアの間で取られるべき確かな問題はありますか？
4. **Ishizuka:** コソボの平和維持活動が期待どおりに成功しなかったのはなぜですか？
5. **Kihara-Hunt:** コソボには国造りに多くの俳優が関わっていたので、この経験をどのように国連や平和活動や平和構築活動にエクスポートすることができますか？



Global Peacebuilding Association

特定非営利活動法人 日本国際平和構築協会

日本平和構築協会
44th セミナー
オンライン ZOOM 会議
29 July 2020
16:00-18:00

現代のコソボへの国連介入の影響
HE 大使 Leon MALAZOGU

16:05 モデレーターによるオープニング, Arbenita Sopaj

16:10 プレゼンテーション

現代のコソボへの国連介入の影響

全権大使 Leon MALAZOGU (駐東京コソボ大使)

16:30 GPAJ メンバーのコメント, 続いてオープンディスカッション

Mr. Ken INOUE, JICA 民主的ガバナンス担当上級顧問

Ambassador Mr. Motoo NOGUCHI, 岩田合同法律事務所

Mr. Satoru KUROSAWA, 共立ウィメンズ大学教授

17:00 オープンディスカッション (GPAJ メンバーとゲスト参加者)

17:55 おわりに GPAJ の長谷川祐弘理事長 そして Arbenita Sopaj 女史の総括

18:00 セミナー終了

追加トピック:

国際司法裁判所 10 周年を記念しての議論. (ICJ) コソボ諮問意見に関する一方的な独立宣言の国際法に基づく諮問意見および命令. (July 22, 2010). Link: <https://www.icj-cij.org/files/case-related/141/141-20100722-ADV-01-00-EN.pdf>

報告者

Arbenita Sopaj



HE Ambassador Leon MALAZOGU



レオン・マラゾグは、日本に対するコソボ共和国の臨時および全権大使であり、マーシャル諸島共和国、パラオ共和国、ミクロネシアおよびツバルの連邦国家に対するコソボ共和国の臨時および全権大使です。彼は、ブルガリアのアメリカン大学とノートルダム大学で国際関係、ガバナンス、紛争解決を専門に研究を終えました。この職に就く前に、レオンは民主主義と開発の間の研究リンクに特化したシンクタンクである開発研究所（D4D）のために民主主義を实

行しました。

レオンはプリシュティナ大学の理事を務め、グラーツ大学が設立したバルカン半島のヨーロッパ政策諮問グループの一員でした。彼はコソボとマケドニアのいくつかの大学で教え、アリゾナ州立大学の学者でした。レオンは、ヨーロッパ少数民族問題センターの地域代表、コソバル政策研究開発研究所の研究ディレクター、副首相の顧問を務め、プリンストンに本部を置く民族関係プロジェクトのコソボ事務所を運営した。レオンは民主化と地域問題に関する数多くの研究を発表しています。Follow him on twitter @malazogu

Photo by: Kageaki Smith

Mr. Ken INOUE



井上健は、開発協力、人道支援、平和構築の分野で35年以上にわたって国連および政府機関と協力してきました。現在の所属：国連システム研究会 (ACUNS); アムネスティインターナショナルジャパン 元国際公務員協会; 平和構築と民主主義に関する専門家グループ; 日本平和構築協会; 民主的ガバナンスのためのパートナーシップ; 日本国連学会; 日本国際開発学会; 東洋大学; 国連訓練研究機関 (UNITAR), 平和諮問委員会. 2013年に彼は協会に参加しました (GPAJ). 彼は2016年から2020年まで協会の監査人 (GPAJ) でした。2015年から2020年まで、国際協力機構 (日本) の民主的統治に関する上級顧問。独立コンサルタント (日本&モロッコ) 2013-2015。

2007-2012年の国連東ティモール統合ミッション (東ティモール) の民主的ガバナンス支援ユニット、ディレクター兼チーフガバナンスアドバイザー。アジア生産性機構 (日本) 2001-2006 産業部局長。地方自治体管理者、Skenderaj / Srbica 地方自治体、国連暫定管理ミッション、コソボ (コソボ) 1999-2001。



Mr. Motoo NOGUCHI



野口基夫氏は、今年3月に公務員を辞任し、弁護士として個人開業した後、GPAJの一員となりました。岩田剛道（2020年4月～現在）の弁護士（特別顧問）です。政府サービスを退職しました（2020年3月。外務省国際司法協力大使、最高検察庁・法務省出向（2018-20）国際刑事裁判所における犠牲者のための信託基金の理事会の議長（2012-18年。カンボジアクメールルージュ裁判での最高裁判所会議所の国連国際判事（UNAKRT / ECCC、2006-2012）日本の検察官（1985-1996。法務省研究所の教授（1996-2000。アジア開発銀行のゼネラルカウンセル事務所の顧問（2000-2004。

UNAFEI（2004-2012）の教授。外務省国際法務局（2004-2014）の弁護士。研究所の国際協力部長（2012-2014）。最高検察庁控訴課（2014-2018）の検察官。彼の学術研修は、東京大学法学部（1983）のLLBで構成されています。

Mr. Satoru KUROSAWA



黒澤悟は現在、共立女子大学・青山学院大学で講師を務めています。彼はJICAのコンサルタント選考委員会の外部メンバーです。1980年から2012年までは、国際問題部門のディレクター、中東のチームリーダー、平和構築事務所のマネージングディレクター、JICA（日本国際協力機構）のバルカン事務所の駐在代表者を務めています。彼は外務省（1983-84）のラテンアメリカ部門1の援助政策部門で働いた。ボリビアの日本大使館（1984-86。プログラマーの助言、プログラマーの政策と評価局（1988-1991。UNHCR 再統合および地域経済セクションの上級開発顧問（2001～2004年）JBIC（国際協力銀行）セクター戦略部次長（2006～2008年）共立

女子大学教授（2012～2020年。青山学院大学（1994）と東京大学（理学修士）の国際経済学修士（1980）。

Mr. Hajdin ABAZI



オーストラリア、キャンベラのコソボ大使（2020年～現在。Abaziはスウェーデンのルンド大学で理論哲学の学士号と修士号を取得しています。彼は博士号を取得しました。社会科学学部のアルバニア、ティラナ大学から。彼の政治的キャリアは、2000年にコソボのフェリザイ市の市長としての地位から始まりました。国会議員（2007-2010。コソボの文化スポーツ青年省の副大臣（2011-2014。コソボの「ハサンプルリシュティナ」大学の講師（2005年）。Pristina（2006～2012）の「Victory College」の講師、Pristhtina（2013～2017）の「AAB College」の講師。



Mr. Qendrim GASHI



フランス、パリのコソボ共和国大使（2020年～現在）。ガシ大使は、コソボの首都プリシュティナで生まれました。プリシュティナ大学で学士号を取得し、ケンブリッジ大学で数学を専攻しました。彼は博士号を取得しました。シカゴ大学で数学の学位を取得。彼は品質に関するコソボ国務院（2015-2016）、プリシュティナのフランス同盟の大統領（2013-2015）、コソボ-アメリカ教育基金理事会のメンバー

ProCredit Bank Kosovo（2012-2016）の取締役会メンバー。コソボ共和国大統領、マダムアティフェテジャージャガの外交政策顧問。プリシュティナ大学准教授（2010-2016）。EPDI Postdoc（ボン、ケンブリッジ、パリ）2008-2010。MPIM Bonn Visitorを含む、多数の賞、賞、奨学金などを受け取っている（2015-2016）、協賛賞（コソボ科学芸術アカデミー、2014年）若手科学者賞（MEST、2012）、リフトオフフェロシップ（Clay Institute、米国、2008年）、EPDI フェロシップ（2008）カルロス・イスナード（UChicago、2008）、東欧学費（トリニティカレッジ、ケンブリッジ、2002）など。

Ms. Merdiana LECI



コソボ外務省、二国間局の Merdiana Leci さん。

レシさんは、シラキウス大学のマクスウェル市民社会公共問題大学院を卒業し、国際開発を専門とする行政学の修士号と、市民社会組織の上級研究証明書を取得しています。彼女はさまざまなコンサルティングや研究プロジェクトに携わってきましたが、世界銀行のプロジェクトを含む、ボローニャの CRIF、米国のグローバルフードバンキングネットワークそしてプリシュティナの evroenergie。彼女はイタリアのボローニャ大学とコソボのプリシュティナ大学で経営と経営の学士号を取得しています。

Dr. Dahlia SIMANGAN



SIMANGAN 博士は、フィリピン大学ディリマン校（2006）で社会学の学士号を取得することで、フィリピンでのキャリアをスタートさせました。さらに、彼女は日本の国際大学で国際関係の修士号を取得しました（2010）。彼女は博士号を取得しています。オーストラリア国立大学（2017）で国際政治戦略研究の博士号を取得。彼女はカンボジア、コソボ、東ティモール、フィリピンで研究を続けています。彼女は GPAJ の研究と目標達成のために彼女の時間とスキルを提供することを目的として、日本グローバル平和構築協会に参加しました。通常の職務に加えて、日本を拠点とする留学生、研究者、実務家とさらに交流することにより、GPAJ ネットワークの拡大に注力する予定です。現在、彼女は取締役会に選ばれています。その間、彼女は

平和と安定に関する教育研究ネットワーク助教授（広島大学大学院人文社会科学研究所）です。



Global Peacebuilding Association

特定非営利活動法人 日本国際平和構築協会

Ms. Elizabeth GAMARRA



エリザベスは、ラテンアメリカとアメリカでの教育と先住民の持続可能性への取り組みに焦点を当てた NGO である GOL の創設者です。彼女はマドリードの IE 大学の元フルブライト助教授です；彼女はユタ大学（メンタルヘルスタディ）で二重修士号を取得しています，そして、国際ロータリー平和フェローとして国際キリスト教大学（平和と紛争解決研究）。民難民研究センターの研究者；アムネスティインターナショナル USA の活動コーディネーター；アーバンインディアンセンターのセラピスト；Oxford Consortium および Pax Trustee のフェロー。彼女の関心は人間の安全保障にある，難民，平和構築と宇宙法。

現在、彼女は GPAJ の理事会の一員です。

Mr. Yuichi KUBOTA



新潟県立大学国際学部地域開発学部窪田氏（2015年4月～2020年3月）。新潟県立大学政策研究センター（2013年4月～2015年3月）。2012年12月に米国ニューヨーク州アルバニー大学（ニューヨーク州立大学）で政治学博士号を取得。M.A.、政治学、日本大学、東京、日本、2003年3月。学士、国際関係、静岡大学、静岡、日本、2000年3月。彼の学術研修には、国連大学国際コース（UNIC）、国連大学、2006年夏が含まれます。セミナーコース（国連システム：構造的、制度的、規範的課題）を修了した。予防外交のための大学院プログラム、日本紛争予防センター（JCCP）2000年夏。セ

ミナーコースを修了。

彼の出版物「南北戦争における反乱経済：非公式、市民ネットワーク、および規制戦略」、国際研究レビュー、近日公開予定。「FATA、パキスタンの世論に対する戦時中のサービス提供の政治化の影響：民主主義改革を支持するのは誰か」アジアの調査、近日公開予定（*Hidayat Ullah Khan* を使用）。アジア太平洋における内戦と第三者の介入」猪口孝（編）『アジア外交 SAGE ハンドブック』。 ロンドン：SAGE、2020年2月。



Ms. Naoko KUMAGAI



熊谷直子は、青山学院大学の教授であり、国際政治、国際組織、紛争解決について教えています。彼女は博士号を取得しました。ニューヨーク市立大学大学院センターで政治学の博士号を取得。彼女は政治と道徳の観点から慰安婦の問題に取り組んできました。和解に関する現在の研究では、アジア女性基金を比較し、日本政府が開始した元慰安婦のための道徳的贖罪プロジェクト、およびドイツ追悼基金、責任、と未来、ナチス時代の東ヨーロッパの奴隷と強制労働者に対する道徳的補償。彼女は2014年に『イアンフモンダイ』（慰安婦問題）を出版した。

Mr. Katsumi ISHIZUKA



石塚克己は、共栄大学国際経営学部教授です。彼は2000年にイギリスのキール大学で博士号を取得しています。彼の研究対象には、国連平和維持活動と平和構築が含まれます。彼は東ティモールにおける平和構築の歴史を含むいくつかの本を書いた（ニューデリー：Cambridge University Press India、2010年）。石塚、勝海。（2013）。平和維持軍の提供国連平和維持活動への貢献の政治、課題、未来。オックスフォード：オックスフォード大学出版局。石塚勝美『国連PKOと国際政治—理論と実践』（創成社2011）。Ishizuka, Katsumi. (2010). 東チモールにおける平和構築の歴史：国際介入の問題。ケンブリッジ：ケンブリッジ大学出版局。最近、彼はGPAJの取締役会の一部として選ばれました。



Global Peacebuilding Association

特定非営利活動法人 日本国際平和構築協会

Ms. Ai Kihara HUNT



木原愛ハントは現在准教授、2017年1月以降、東京大学大学院人間の安全保障プログラム。また、大学では持続可能な平和研究センターの副所長も務めています。彼女は国連警察教義開発グループのメンバーでした、2016年の国連平和維持活動局。彼女はエセックス大学から博士号を取得し、国連警察職員の個々の刑事責任に関する研究を行っています、フランソワーズ・ハン普森教授の監督下で。最近彼女は GPAJ（2020-現在）の理事会に参加しました。

Ms. Arbenita SOPAJ



アルベニータソパジは博士号を取得しています。日本の神戸大学の候補者、とティーチングアシスタント。彼女の経験には、教育の改善に焦点を当てたプロジェクトが含まれます、国連と EU の作業と意思決定プロセスに焦点を当てたさまざまな会議の議長、事業開発マネージャー、外交インターン、教育助手。彼女は国際関係に焦点を当てた二重の学士号と修士号を取得しました国連は平和維持と平和構築に取り組んでいます。協会での活動：「国連平和構築の課題と 21 世紀の機会における新興勢力の役割」（東京平和構築フォーラムでの発表、2019年11月2日）彼女は ACUNS-Tokyo で 2020年7月からアシスタントを務めています。グローバル平和構築協会日本会員。